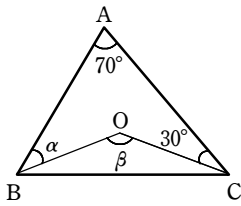


1 右の図において、点 O は△ABC の外心である。
∠BAC=70°, ∠ACO=30° のとき、角 α, β を求めよ。



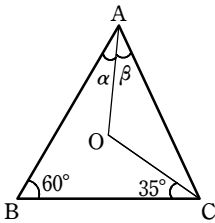
解答 α=40°, β=140°

解説

点 O は△ABC の外心であるから
OA=OB=OC
よって、△OAB, △OCA は二等辺三角形である。
ゆえに ∠OAC=∠OCA=30°
∠OAB=70°-∠OAC=40°
α=∠OAB であるから α=40°
△ABC の内角の和は 180° であるから
70°+40°+30°+∠OBC+∠OCB=180°
よって ∠OBC+∠OCB=40°
△OBC の内角の和も 180° であるから
β=180°-(∠OBC+∠OCB)
=180°-40°=140°

別解 (後半) △ABC は点 O を中心とし、半径 OA の円に内接する。
よって、円周角の定理により
β=2∠BAC=2×70°=140°

2 △ABC の外心を O とする。右の図の角 α, β を求めよ。
[20 点]

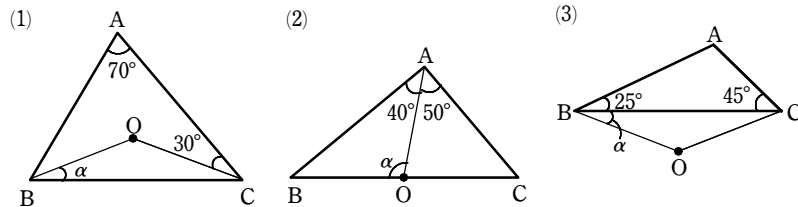


解答 ∠OBC=∠OCB=35°
よって ∠OBA=60°-35°=25°
ゆえに α=∠OBA=25°
よって β={180°-(25°+60°+35°)}÷2=30°

解説

∠OBC=∠OCB=35°
よって ∠OBA=60°-35°=25°
ゆえに α=∠OBA=25°
よって β={180°-(25°+60°+35°)}÷2=30°

3 下の図において、点 O は△ABC の外心である。α を求めよ。



解答 (1) α=20° (2) α=100° (3) α=20°

解説

(1) OA=OB=OC であるから、△OAB, △OBC, △OCA はいずれも二等辺三角形である。
∠OAC=∠OCA=30°
∠OBA=∠OAB=70°-30°=40°
∠OCB=∠OBC=α

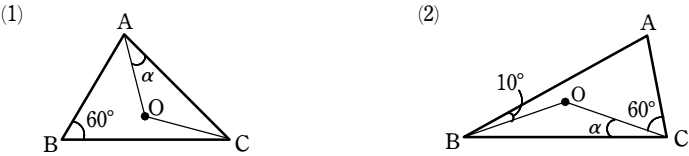
よって、角の大きさは右の図のようになる。
△ABC において
70°+40°+2α+30°=180°
これを解いて α=20°

(2) OA=OB であるから、△OAB は二等辺三角形である。よって
∠OBA=∠OAB=40°
したがって
α=180°-2×40°=100°

(3) OA=OB=OC であるから、△OAB, △OBC, △OCA はいずれも二等辺三角形である。
∠OAB=∠OBA=α+25°
∠OAC=∠OCA=∠ACB+∠OCB
=45°+α

よって、角の大きさは右の図のようになる。
△ABC において
(α+25°)+25°+45°+(α+45°)=180°
2α=40°
したがって α=20°

4 下の図で、点 O は△ABC の外心である。α を求めよ。 [10点×2=20点]

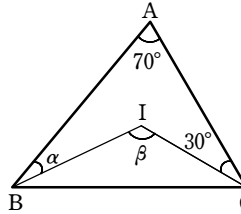
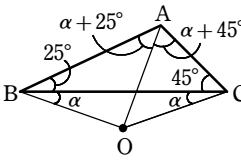
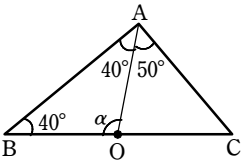
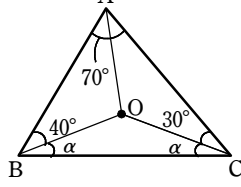


解答 (1) ∠OAB+∠OCB=∠OBA+∠OBC=60°
よって α={180°-(60°+60°)}÷2=30°
(2) ∠BAC=∠OAB+∠OAC=∠OBA+∠OCA=10°+60°=70°
よって α={180°-(70°+10°+60°)}÷2=20°

解説

(1) ∠OAB+∠OCB=∠OBA+∠OBC=60°
よって α={180°-(60°+60°)}÷2=30°
(2) ∠BAC=∠OAB+∠OAC=∠OBA+∠OCA=10°+60°=70°
よって α={180°-(70°+10°+60°)}÷2=20°

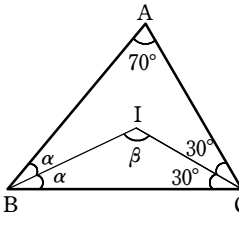
5 右の図において、点 I は△ABC の内心である。
∠BAC=70°, ∠ACI=30° のとき、角 α, β を求めよ。



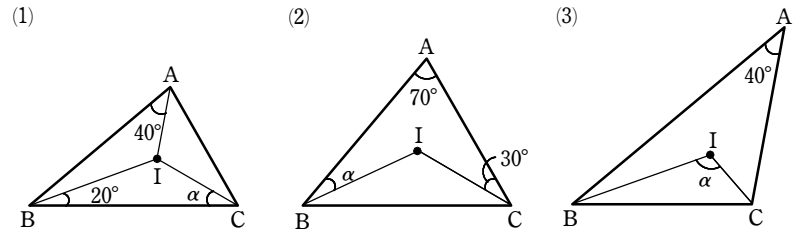
解答 α=25°, β=125°

解説

点 I は△ABC の内心であるから
∠IBC=∠IBA=α
∠ICB=∠ICA=30°
よって 2α+70°+30°×2=180°
ゆえに α=25°
また β=180°-(α+30°)
=180°-(25°+30°)=125°



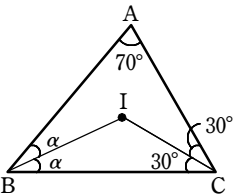
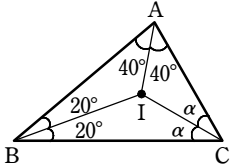
6 下の図において、点 I は△ABC の内心である。α を求めよ。



解答 (1) α=30° (2) α=25° (3) α=110°

解説

(1) ∠IAC=∠IAB=40°
∠IBA=∠IBC=20°
∠ICA=∠ICB=α
よって、△ABC において
2(40°+20°+α)=180°
これを解いて α=30°
(2) ∠IBC=∠IBA=α
∠ICB=∠ICA=30°
よって、△ABC において
2α+2×30°+70°=180°
2α=50°
したがって α=25°

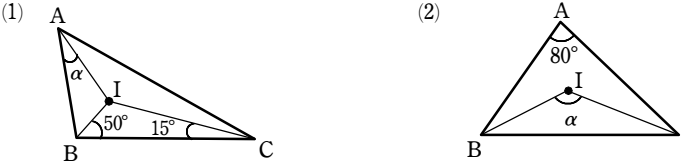


(3) ∠ABC+∠ACB=180°-40°=140°
∠IBA=∠IBC
∠ICA=∠ICB
であるから

$$\begin{aligned} \angle IBC+\angle ICB &= \frac{1}{2}(\angle ABC+\angle ACB) \\ &= \frac{1}{2}\times 140^\circ=70^\circ \end{aligned}$$

よって α=180°-70°=110°

7 下の図で、点 I は△ABC の内心である。α を求めよ。 [10点×2=20点]



【解答】 (1) $\angle ABC = 50^\circ \times 2 = 100^\circ$, $\angle BCA = 15^\circ \times 2 = 30^\circ$

よって $\alpha = [180^\circ - (100^\circ + 30^\circ)] \div 2 = 25^\circ$

(2) $\angle ABC + \angle ACB = 2(\angle IBC + \angle ICB)$ …… ①

ここで $\angle ABC + \angle ACB = 180^\circ - 80^\circ = 100^\circ$, $\angle IBC + \angle ICB = 180^\circ - \alpha$
 であるから、①より $100^\circ = 2(180^\circ - \alpha)$ これを解いて $\alpha = 130^\circ$

【解説】

(1) $\angle ABC = 50^\circ \times 2 = 100^\circ$, $\angle BCA = 15^\circ \times 2 = 30^\circ$

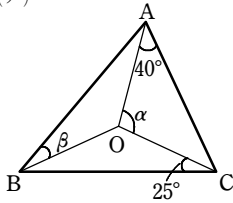
よって $\alpha = [180^\circ - (100^\circ + 30^\circ)] \div 2 = 25^\circ$

(2) $\angle ABC + \angle ACB = 2(\angle IBC + \angle ICB)$ …… ①

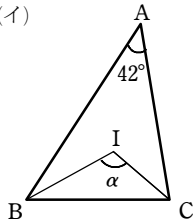
ここで $\angle ABC + \angle ACB = 180^\circ - 80^\circ = 100^\circ$, $\angle IBC + \angle ICB = 180^\circ - \alpha$
 であるから、①より $100^\circ = 2(180^\circ - \alpha)$ これを解いて $\alpha = 130^\circ$

8 (1) 次の図で、 $\triangle ABC$ の外心を O、内心を I、垂心を H とする。角 α , β の大きさを求めよ。

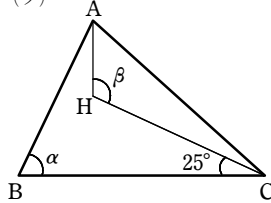
(ア)



(イ)

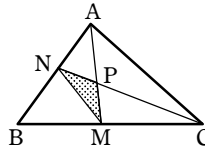


(ウ)



(2) $\triangle ABC$ の内心を I とし、直線 AI と辺 BC の交点を D とする。AB=3, BC=6, CA=4 のとき、AI : ID を求めよ。

(3) 右の図の $\triangle ABC$ において、点 M, N をそれぞれ辺 BC, AB の中点とする。 $\triangle ABC$ の面積が 12 のとき、 $\triangle PNM$ の面積を求めよ。



【解答】 (1) (ア) $\alpha = 100^\circ$, $\beta = 25^\circ$ (イ) $\alpha = 111^\circ$ (ウ) $\alpha = 65^\circ$, $\beta = 115^\circ$

(2) 7 : 6 (3) 1

【解説】

(1) (ア) OA=OC であるから

$$\angle OCA = \angle OAC = 40^\circ$$

よって $\alpha = 180^\circ - 2 \times 40^\circ = 100^\circ$

また、OA=OB, OB=OC から

$$\angle OAB = \angle OBA = \beta, \angle OBC = \angle OCB = 25^\circ$$

ゆえに、 $\triangle ABC$ において

$$2 \times 40^\circ + 2 \times 25^\circ + 2\beta = 180^\circ$$

よって $2\beta = 50^\circ$ したがって $\beta = 25^\circ$

【別解】 まず、先に β を求める。

次に、円周角の定理により $\alpha = 2(\beta + 25^\circ) = 2(25^\circ + 25^\circ) = 100^\circ$

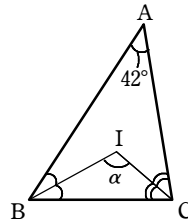
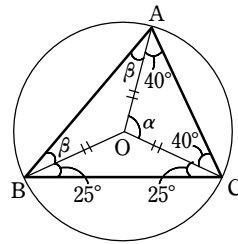
(イ) $\angle ABI = \angle IBC$, $\angle ACI = \angle ICB$ であるから、
 $\triangle IBC$ において

$$\alpha = 180^\circ - \left(\frac{1}{2} \angle B + \frac{1}{2} \angle C \right) = 180^\circ - \frac{1}{2} (\angle B + \angle C)$$

$$= 180^\circ - \frac{1}{2} (180^\circ - \angle A)$$

$$= 180^\circ - 90^\circ + \frac{42^\circ}{2}$$

$$= 111^\circ$$



(ウ) 直線 AH と辺 BC との交点を D、直線 CH と辺 AB との交点を E とすると

$$\angle ADC = \angle CEB = 90^\circ$$

$\triangle BCE$ において $\alpha + 25^\circ + 90^\circ = 180^\circ$

よって $\alpha = 65^\circ$

$\triangle CHD$ において、内角と外角の関係から

$$\beta = 25^\circ + 90^\circ = 115^\circ$$

【別解】 四角形 BDHE は円に内接する。よって $\alpha + \angle EHD = 180^\circ$

$\angle EHD = \beta$ であるから $\beta = 180^\circ - \alpha = 115^\circ$

(2) $\triangle ABC$ において、AD は $\angle A$ の二等分線であるから

$$BD : DC = AB : AC = 3 : 4$$

$$\text{よって } BD = \frac{3}{3+4} BC = \frac{3}{7} \times 6 = \frac{18}{7}$$

$\triangle ABD$ において、BI は $\angle B$ の二等分線であるから

$$AI : ID = BA : BD = 3 : \frac{18}{7} = 7 : 6$$

(3) N は辺 AB の中点であるから $\triangle ANC = \frac{1}{2} \triangle ABC = 6$

P は $\triangle ABC$ の重心であるから CP : PN = 2 : 1

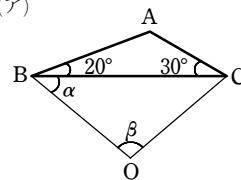
よって $\triangle ANP : \triangle ANC = NP : NC = 1 : 3$

$$\text{ゆえに } \triangle ANP = \frac{1}{3} \triangle ANC = 2$$

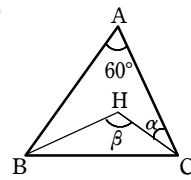
また、AP : PM = 2 : 1 であるから $\triangle PNM = \frac{1}{2} \triangle ANP = 1$

9 (1) 右の図で、 $\triangle ABC$ の外心を (ア)

O、垂心を H とする。角 α , β の大きさを求めよ。



(イ)



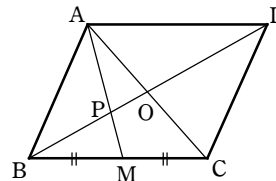
(2) $\triangle ABC$ の内心を I とする。 $\angle BIC = 130^\circ$ のとき、 $\angle A$ の大きさを求めよ。

(3) 3 辺が AB=5, BC=8, CA=4 である $\triangle ABC$ の内心を I とし、直線 CI と辺 AB との交点を D とする。このとき、CI : ID を求めよ。

(4) 右の図のように、平行四辺形 ABCD の対角線の交点を O、辺 BC の中点を M とし、AM と BD の交点を P とする。

(ア) 線分 PD の長さは、線分 BD の長さの何倍か。

(イ) $\triangle ABP$ の面積が 6 cm^2 のとき、四角形 ABCD の面積を求めよ。



【解答】 (1) (ア) $\alpha = 40^\circ$, $\beta = 100^\circ$ (イ) $\alpha = 30^\circ$, $\beta = 120^\circ$ (2) 80°

(3) 12 : 5 (4) (ア) $\frac{2}{3}$ 倍 (イ) 36 cm^2

【解説】

(1) (ア) $\triangle ABC$ において

$$\angle BAC = 180^\circ - (20^\circ + 30^\circ) = 130^\circ$$

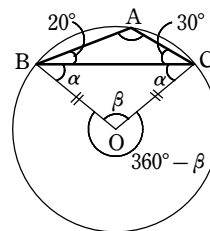
よって $360^\circ - \beta = 2 \angle BAC = 260^\circ$

ゆえに $\beta = 100^\circ$

OB=OC から

$$\angle OBC = \angle OCB = \alpha$$

$$\text{よって } \alpha = \frac{180^\circ - \beta}{2} = \frac{180^\circ - 100^\circ}{2} = 40^\circ$$



(イ) 直線 BH と辺 CA の交点を D、直線 CH と辺 AB の交点を E とすると

$$\angle BDC = 90^\circ, \angle AEC = 90^\circ$$

$\triangle AEC$ において

$$\alpha = 180^\circ - (60^\circ + 90^\circ) = 30^\circ$$

$\triangle CDH$ において、内角と外角の関係から

$$\beta = \alpha + 90^\circ = 30^\circ + 90^\circ = 120^\circ$$

【別解】 $\angle AEH + \angle ADH = 180^\circ$ であるから、四角形 AEHD は円に内接する。

よって $\angle EHD = 180^\circ - \angle A = 120^\circ$ ゆえに $\beta = \angle EHD = 120^\circ$

$\beta = \alpha + 90^\circ$ であるから $\alpha = \beta - 90^\circ = 30^\circ$

(2) IB, IC はそれぞれ $\angle ABC$, $\angle ACB$ の二等分線である。

また、 $\triangle IBC$ において

$$\begin{aligned} \angle IBC + \angle ICB &= 180^\circ - \angle BIC \\ &= 180^\circ - 130^\circ = 50^\circ \end{aligned}$$

$$\text{ゆえに } \angle ABC + \angle ACB = 2(\angle IBC + \angle ICB) = 2 \times 50^\circ = 100^\circ$$

よって、 $\triangle ABC$ において

$$\angle A = 180^\circ - (\angle ABC + \angle ACB) = 180^\circ - 100^\circ = 80^\circ$$

(3) $\triangle ABC$ において、CD は $\angle C$ の二等分線であるから

$$AD : DB = CA : CB = 4 : 8 = 1 : 2$$

$$\text{よって } AD = \frac{1}{1+2} AB = \frac{1}{3} \times 5 = \frac{5}{3}$$

$\triangle ADC$ において、AI は $\angle A$ の二等分線であるから

$$CI : ID = AC : AD = 4 : \frac{5}{3} = 12 : 5$$

(4) (ア) AO=CO, BM=CM より、点 P は $\triangle ABC$ の重心であるから BP : PO = 2 : 1
 よって、 $PO = \frac{1}{3} BO$ であり、 $BO = OD = \frac{1}{2} BD$ であるから

$$PD = PO + OD = \frac{1}{3} BO + BO = \frac{4}{3} BO$$

$$= \frac{4}{3} \cdot \frac{1}{2} BD = \frac{2}{3} BD$$

したがって $\frac{2}{3}$ 倍

$$(イ) BP = BD - PD = BD - \frac{2}{3} BD = \frac{1}{3} BD$$

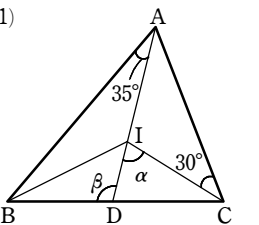
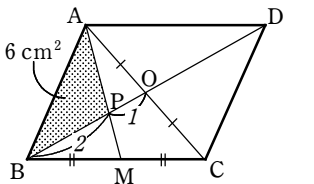
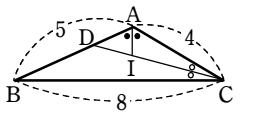
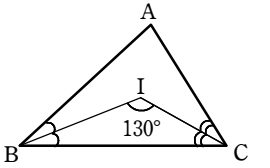
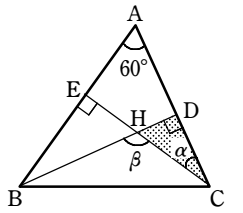
$$\text{よって } BP : PD = \frac{1}{3} BD : \frac{2}{3} BD = 1 : 2$$

ゆえに $\triangle ABD = 3 \triangle ABP = 3 \times 6 = 18 \text{ (cm}^2\text{)}$

よって、四角形 ABCD の面積は $2 \times \triangle ABD = 36 \text{ (cm}^2\text{)}$

10 (1) $\triangle ABC$ の内心を I とするとき、右の図の角 α , β を求めよ。ただし、点 D は AI と BC の交点である。

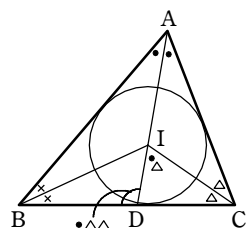
(2) $\triangle ABC$ の内心を I とし、直線 AI と辺 BC の交点を D とする。AB=8, BC=7, AC=4 であるとき、AI : ID を求めよ。



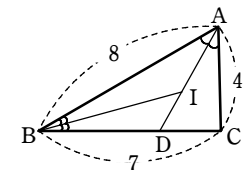
【解答】 (1) $\alpha = 65^\circ$, $\beta = 95^\circ$ (2) 12 : 7

【解説】

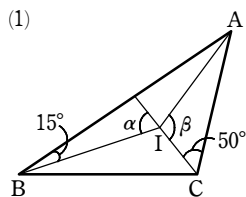
- (1) $\angle IAC = \angle IAB = 35^\circ$ であるから
 $\alpha = \angle IAC + \angle ICA$
 $= 35^\circ + 30^\circ = 65^\circ$
 よって $\beta = \alpha + \angle ICD = 65^\circ + \angle ICA$
 $= 65^\circ + 30^\circ = 95^\circ$



- (2) 直線 AD は $\angle A$ の二等分線であるから
 $BD : DC = AB : AC = 2 : 1$
 よって $BD = \frac{2}{3}BC = \frac{14}{3}$
 直線 BI は $\angle B$ の二等分線であるから
 $AI : ID = BA : BD = 8 : \frac{14}{3} = 12 : 7$



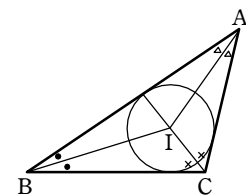
- [11] (1) $\triangle ABC$ の内心を I とするとき、右の図の角 α , β を求めよ。
 (2) 3 辺が $AB=5$, $BC=8$, $CA=4$ である $\triangle ABC$ の内心を I とし、直線 CI と辺 AB との交点を D とする。このとき、CI : ID を求めよ。



[解答] (1) $\alpha = 65^\circ$, $\beta = 105^\circ$ (2) $12 : 5$

[解説]

- (1) I は $\triangle ABC$ の内心であるから
 $\angle IBC = \angle IBA = 15^\circ$, $\angle ICB = \angle ICA = 50^\circ$
 ゆえに $\alpha = \angle IBC + \angle ICB = 15^\circ + 50^\circ = 65^\circ$
 また $\angle B = 2\angle ABI = 30^\circ$, $\angle C = 2\angle ACI = 100^\circ$
 よって $\angle A = 180^\circ - (\angle B + \angle C) = 180^\circ - (30^\circ + 100^\circ) = 50^\circ$

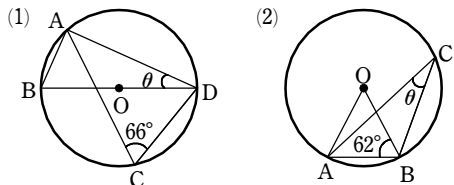


- ゆえに $\angle IAC = \frac{1}{2}\angle A = 25^\circ$
 よって $\beta = 180^\circ - (\angle IAC + \angle ICA) = 180^\circ - (25^\circ + 50^\circ) = 105^\circ$

- (2) $\triangle ABC$ において、CD は $\angle C$ の二等分線であるから
 $AD : DB = CA : CB = 4 : 8 = 1 : 2$
 よって $AD = \frac{1}{1+2} \times AB = \frac{1}{3} \times 5 = \frac{5}{3}$

- また、 $\triangle ADC$ において、AI は $\angle A$ の二等分線であるから
 $CI : ID = AC : AD = 4 : \frac{5}{3} = 12 : 5$

- [12] 右の図において、角 θ を求めよ。ただし、O は円の中心である。



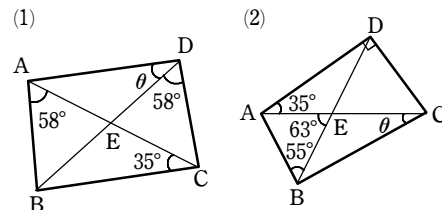
[解答] (1) 24° (2) 28°

[解説]

- (1) 円周角の定理より $\angle ABD = \angle ACD = 66^\circ$
 線分 BD は円の直径であるから $\angle BAD = 90^\circ$
 $\triangle ABD$ の内角の和は 180° であるから
 $\theta = 180^\circ - (90^\circ + 66^\circ) = 24^\circ$

- (2) $\triangle OAB$ は $OA = OB$ の二等辺三角形であるから
 $\angle OAB = \angle OBA = 62^\circ$
 $\triangle OAB$ の内角の和は 180° であるから
 $\angle AOB = 180^\circ - 62^\circ \times 2 = 56^\circ$
 円周角の定理により $\theta = \frac{1}{2}\angle AOB = 28^\circ$

- [13] 右の図において、角 θ を求めよ。



[解答] (1) 35° (2) 28°

[解説]

- (1) A と D は直線 BC に関して同じ側にあり、 $\angle BAC = \angle BDC$ であるから、円周角の定理の逆により、4 点 A, B, C, D は 1 つの円周上にある。

よって、円周角の定理により $\theta = \angle ACB = 35^\circ$

- (2) $\triangle ACD$ の内角の和は 180° であるから
 $\angle ACD = 180^\circ - (90^\circ + 35^\circ) = 55^\circ$

よって、B と C は直線 AD に関して同じ側にあり、 $\angle ABD = \angle ACD$ であるから、円周角の定理の逆により、4 点 A, B, C, D は 1 つの円周上にある。

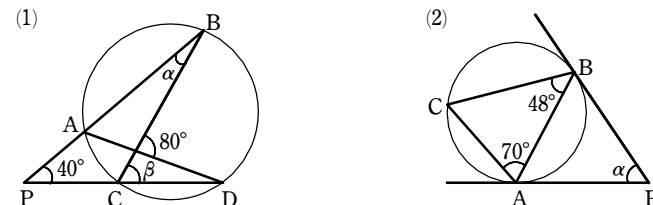
よって、円周角の定理により $\angle CBD = \angle CAD = 35^\circ$

また $\angle BEA = \angle EBC + \angle ECB$

よって $63^\circ = 35^\circ + \theta$

ゆえに $\theta = 28^\circ$

- [14] 下の図において、角 α , β を求めよ。ただし、(2) で直線 PA, PB は $\triangle ABC$ の外接円の接線である。



[解答] (1) $\alpha = 20^\circ$, $\beta = 60^\circ$ (2) $\alpha = 56^\circ$

[解説]

- (1) 弧 BD に対する円周角より

$$\angle BAD = \angle BCD = \beta$$

また、 $\angle ABC + \angle BAD = 80^\circ$ であるから

$$\alpha + \beta = 80^\circ \quad \dots\dots ①$$

一方、 $\angle ABC + \angle APC = \angle BCD$ であるから

$$\alpha + 40^\circ = \beta \quad \dots\dots ②$$

①, ② から $\alpha = 20^\circ$, $\beta = 60^\circ$

- (2) $\angle ACB = 180^\circ - (\angle CAB + \angle CBA)$
 $= 180^\circ - (70^\circ + 48^\circ) = 62^\circ$

接線と弦の作る角の関係から

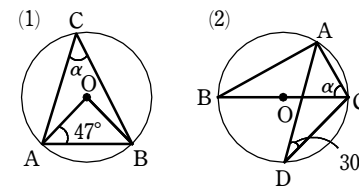
$$\angle BAP = \angle ACB = 62^\circ$$

$$\angle ABP = \angle BCA = 62^\circ$$

ゆえに $\alpha = 180^\circ - (\angle BAP + \angle ABP)$

$$= 180^\circ - (62^\circ + 62^\circ) = 56^\circ$$

- [15] 右の図において、 α を求めよ。ただし、O は円の中心、(2) の線分 BC は円の直径である。



[解答] (1) $\alpha = 43^\circ$ (2) $\alpha = 60^\circ$

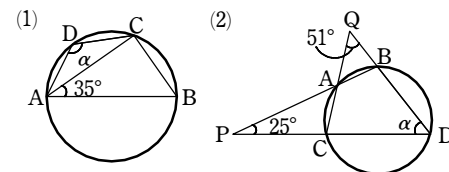
[解説]

- (1) $\triangle OAB$ は二等辺三角形であるから
 $\angle AOB = 180^\circ - 2 \times 47^\circ = 86^\circ$

よって $\alpha = \frac{1}{2}\angle AOB = 43^\circ$

- (2) $\angle ABC = \angle ADC = 30^\circ$, $\angle BAC = 90^\circ$ であるから
 $\alpha = 180^\circ - (30^\circ + 90^\circ) = 60^\circ$

- [16] 右の図において、 α を求めよ。ただし、(1) で線分 AB は円の直径とする。



[解答] (1) $\alpha = 125^\circ$ (2) $\alpha = 52^\circ$

[解説]

- (1) AB が円の直径であるから $\angle ACB = 90^\circ$

よって $\angle ABC = 180^\circ - (35^\circ + 90^\circ) = 55^\circ$

四角形 ABCD は円に内接するから

$$\alpha = 180^\circ - 55^\circ = 125^\circ$$

- (2) 四角形 ACDB は円に内接するから $\angle PAC = \alpha$

また $\angle ACP = \alpha + 51^\circ$

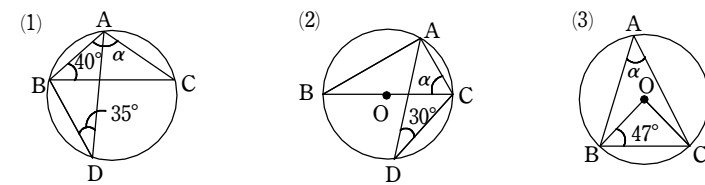
よって、 $\triangle APC$ において $\alpha + 25^\circ + (\alpha + 51^\circ) = 180^\circ$

これを解いて $\alpha = 52^\circ$

[別解] (1) B と D を結ぶと $\angle BDC = \angle BAC = 35^\circ$, $\angle ADB = 90^\circ$

よって $\alpha = \angle ADB + \angle BDC = 90^\circ + 35^\circ = 125^\circ$

- [17] 下の図において、 α を求めよ。ただし、(2), (3) の O は円の中心、(2) の線分 BC は円の直径である。



[解答] (1) $\alpha = 105^\circ$ (2) $\alpha = 60^\circ$ (3) $\alpha = 43^\circ$

[解説]

- (1) 円周角の定理より $\angle ADB = \angle ACB = 35^\circ$

よって、 $\triangle ABC$ において $\alpha + 40^\circ + 35^\circ = 180^\circ$

これを解いて $\alpha = 105^\circ$

- (2) 円周角の定理より $\angle ADC = \angle ABC = 30^\circ$

また、線分 BC は円の直径であるから $\angle BAC = 90^\circ$

よって、 $\triangle ABC$ において $\alpha + 30^\circ + 90^\circ = 180^\circ$

これを解いて $\alpha = 60^\circ$

(3) $\triangle OBC$ は二等辺三角形であるから

$$\angle BOC = 180^\circ - 47^\circ \times 2 = 86^\circ$$

よって、円周角の定理により $\alpha = \frac{1}{2} \angle BOC = 43^\circ$

18 右の図の $\triangle ABC$ において

$$\angle A : \angle B : \angle C = 5 : 3 : 1$$

である。

3 点 A, B, C を通る円 O の周上の点 A を通る直径を AD とするとき、 $\angle BAD$ の大きさを求めよ。

解答 70°

解説

$\triangle ABC$ の内角の和は 180° で

$$\angle C = 180^\circ \times \frac{1}{5+3+1} = 20^\circ$$

弧 AB に対する円周角で

$$\angle ADB = \angle ACB = 20^\circ$$

直径 AD に対する円周角で $\angle ABD = 90^\circ$

よって $\angle BAD = 180^\circ - 90^\circ - 20^\circ = 70^\circ$

19 $\triangle ABC$ の $\angle A$ の二等分線と辺 BC の交点を D とする。

A における $\triangle ABC$ の外接円の接線と、 C を通り AD に平行な直線との交点を E とする。

$\angle A = 58^\circ$, $\angle B = 48^\circ$ であるとき、 $\angle CDE$ の大きさを求めよ。

解答 $\angle CDE = 48^\circ$

解説

AD は $\angle A$ の二等分線であるから

$$\angle BAD = \angle CAD = \frac{1}{2} \angle A = 29^\circ$$

接弦定理により $\angle CAE = \angle B = 48^\circ$

ゆえに $\angle DAE = 29^\circ + 48^\circ = 77^\circ$

$\triangle ABD$ において

$$\angle ADC = \angle ABD + \angle BAD = 48^\circ + 29^\circ = 77^\circ$$

よって $\angle ADC = \angle DAE$ …… ①

図のように点 F をとると、 $AD \parallel EC$ であるから $\angle ADC = \angle ECF$ …… ②

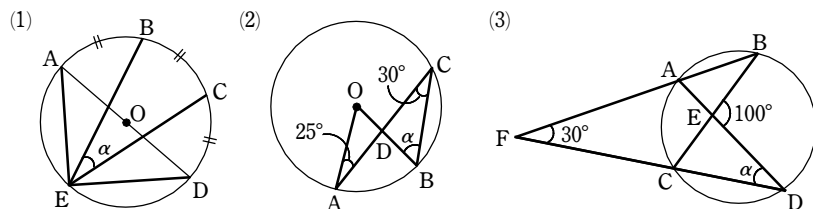
①, ② から $\angle DAE = \angle ECF$

したがって、四角形 $ADCE$ は円に内接する。

この円の \widehat{CE} に対する円周角であるから $\angle CDE = \angle CAE = 48^\circ$

20 下の図において、 α を求めよ。ただし、点 O は円の中心であり、(1) では

$\widehat{AB} = \widehat{BC} = \widehat{CD}$ である。



解答 (1) $\alpha = 30^\circ$ (2) $\alpha = 55^\circ$ (3) $\alpha = 35^\circ$

解説

(1) $\widehat{AB} = \widehat{BC} = \widehat{CD}$ であるから $\angle AEB = \angle BEC = \angle CED = \alpha$

また、線分 AD は円 O の直径であるから

$$\angle AED = 90^\circ \quad \text{すなわち} \quad 3\alpha = 90^\circ$$

よって $\alpha = 30^\circ$

(2) 円周角の定理により $\angle AOB = 2\angle ACB = 2 \times 30^\circ = 60^\circ$

また、 $\triangle OAD$ において

$$\angle ODC = \angle AOD + \angle OAD = 60^\circ + 25^\circ = 85^\circ$$

$\triangle BCD$ において

$$\angle ODC = \angle DBC + \angle DCB = \alpha + 30^\circ$$

ゆえに $\alpha + 30^\circ = 85^\circ$

よって $\alpha = 55^\circ$

(3) $\triangle AFD$ において $\angle BAD = \angle AFD + \angle ADF = 30^\circ + \alpha$

\widehat{AC} に対する円周角は等しいから

$$\angle ABC = \angle ADC = \alpha$$

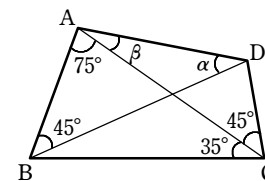
$\triangle BAE$ において

$$\angle BED = \angle BAE + \angle ABE = (30^\circ + \alpha) + \alpha = 2\alpha + 30^\circ$$

ゆえに $2\alpha + 30^\circ = 100^\circ$

よって $\alpha = 35^\circ$

21 右の図において、 α, β を求めよ。



解答 $\alpha = 35^\circ, \beta = 25^\circ$

解説

$\angle ABD = 45^\circ, \angle ACD = 45^\circ$ であるから $\angle ABD = \angle ACD$

よって、円周角の定理の逆により、4 点 A, B, C, D は 1 つの円周上にある。

この円において、円周角の定理により

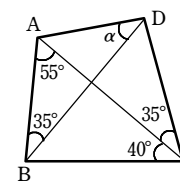
$$\alpha = \angle ACB = 35^\circ$$

また、 $\triangle ABD$ において、内角の和は 180° であるから

$$45^\circ + (75^\circ + \beta) + 35^\circ = 180^\circ$$

よって $\beta = 25^\circ$

22 右の図において、 α を求めよ。



解答 $\alpha = 40^\circ$

解説

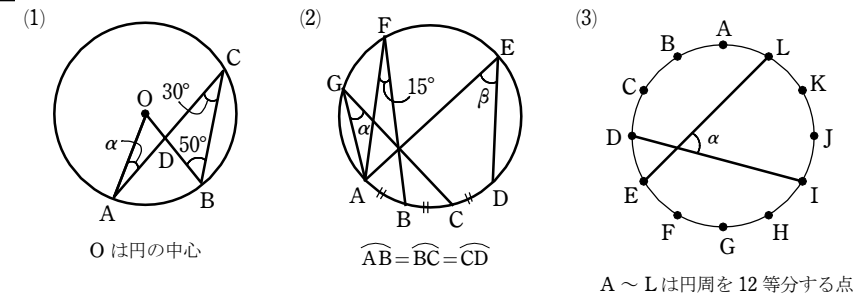
$\angle ABD = 35^\circ, \angle ACD = 35^\circ$ であるから

$$\angle ABD = \angle ACD$$

よって、円周角の定理の逆により、4 点 A, B, C, D は 1 つの円周上にある。

この円において、円周角の定理により $\alpha = \angle ACB = 40^\circ$

23 下の図において、 α, β を求めよ。



解答 (1) $\alpha = 20^\circ$ (2) $\alpha = 30^\circ, \beta = 45^\circ$ (3) $\alpha = 60^\circ$

解説

(1) 円周角の定理により

$$\angle AOB = 2\angle ACB = 2 \times 30^\circ = 60^\circ$$

$\triangle OAD$ において

$$\angle ADB = \angle OAD + \angle AOD = \angle OAD + \angle AOB = \alpha + 60^\circ$$

$\triangle BCD$ において

$$\angle ADB = \angle DBC + \angle DCB = 50^\circ + 30^\circ = 80^\circ$$

よって $\alpha + 60^\circ = 80^\circ$

すなわち $\alpha = 20^\circ$

(2) 円の中心を O とすると、円周角の定理により

$$\angle AOB = 30^\circ \text{ であるから}$$

$$\angle AOC = 2 \times 30^\circ = 60^\circ$$

$$\angle AOD = 3 \times 30^\circ = 90^\circ$$

よって

$$\alpha = \angle AGC = \frac{1}{2} \angle AOC = 30^\circ$$

$$\beta = \angle AED = \frac{1}{2} \angle AOD = 45^\circ$$

(3) 円の中心を O とする。

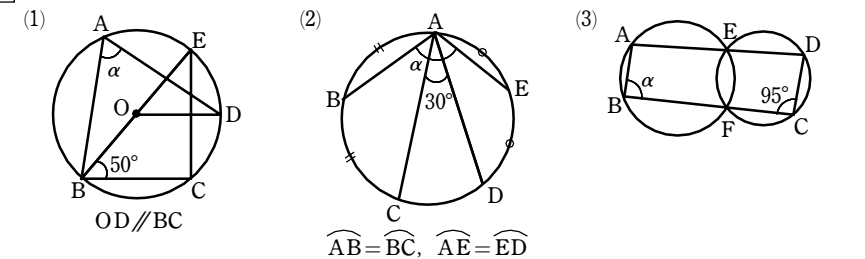
$$\angle DIE = \frac{1}{2} \angle DOE = \frac{1}{2} \times 360^\circ \times \frac{1}{12} = 15^\circ$$

$$\text{また} \quad \angle IEL = \frac{1}{2} \angle IOL = \frac{1}{2} \times 360^\circ \times \frac{3}{12} = 45^\circ$$

よって、線分 DI と EL の交点を P とすると

$$\alpha = \angle PIE + \angle PEI = 15^\circ + 45^\circ = 60^\circ$$

24 下の図において、 α を求めよ。ただし、 O は円の中心とする。



解答 (1) $\alpha = 65^\circ$ (2) $\alpha = 105^\circ$ (3) $\alpha = 85^\circ$

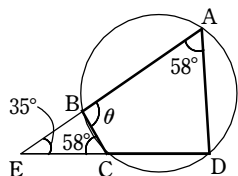
解説

(1) $OD \parallel BC$ より、 $\angle EOD = \angle OBC = 50^\circ$ であるから

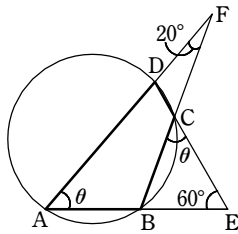
$$\angle BOD = 180^\circ - \angle EOD = 180^\circ - 50^\circ = 130^\circ$$

$$\text{よって} \quad \alpha = \angle BAD = \frac{1}{2} \angle BOD = \frac{1}{2} \times 130^\circ = 65^\circ$$

- (1) $\angle BCE = \angle A = 58^\circ$
 よって $\theta = \angle E + \angle BCE$
 $= 35^\circ + 58^\circ$
 $= 93^\circ$



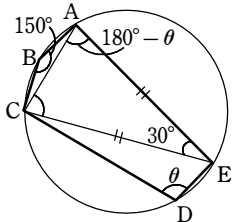
- (2) 四角形 ABCD は円に内接するから
 $\angle BCE = \angle DAB = \theta$
 よって $\angle ABF = \angle BCE + \angle BEC$
 $= \theta + 60^\circ$



- $\triangle ABF$ において
 $\theta + 20^\circ + (\theta + 60^\circ) = 180^\circ$
 整理して $2\theta = 100^\circ$
 したがって $\theta = 50^\circ$

- (3) 対角線 AC を引く。

- 四角形 ABCE は円に内接するから
 $\angle AEC = 180^\circ - \angle ABC = 180^\circ - 150^\circ = 30^\circ$
 $AE = CE$ より, $\triangle ACE$ は二等辺三角形であるから
 $\angle EAC = \frac{1}{2}(180^\circ - \angle AEC) = \frac{1}{2}(180^\circ - 30^\circ) = 75^\circ$
 四角形 ACDE は円に内接するから
 $\theta = 180^\circ - \angle EAC = 180^\circ - 75^\circ = 105^\circ$

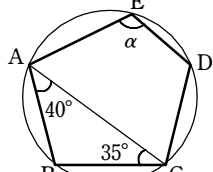
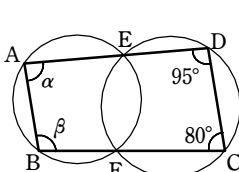
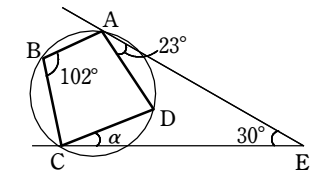


- [31] 下の図において, α, β を求めよ。ただし, (3) では $\widehat{AB} = \widehat{CD}$ である。

(1)

(2)

(3)

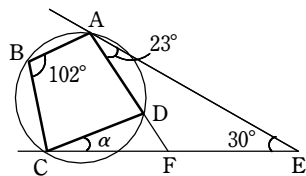


- [解答] (1) $\alpha = 25^\circ$ (2) $\alpha = 85^\circ, \beta = 100^\circ$ (3) $\alpha = 110^\circ$

[解説]

- (1) 直線 AD と直線 CE の交点を F とする。

- $\triangle AFE$ において
 $\angle DFC = \angle EAF + \angle AEF$
 $= 23^\circ + 30^\circ = 53^\circ$



- 四角形 ABCD は円に内接するから
 $\angle CDF = 102^\circ$

- よって $\alpha = 180^\circ - (102^\circ + 53^\circ) = 25^\circ$

- (2) E と F を結ぶ。

- 四角形 ABFE は円に内接するから

- $\angle EFC = \angle BAE = \alpha$

- また, 四角形 EFCD は円に内接するから

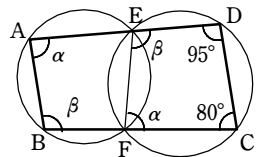
- $\angle EFC + \angle EDC = 180^\circ$

- すなわち $\alpha + 95^\circ = 180^\circ$ よって $\alpha = 85^\circ$

- 同様に $\angle FED = \angle ABF = \beta$

- また $\angle FED + \angle FCD = 180^\circ$

- すなわち $\beta + 80^\circ = 180^\circ$ よって $\beta = 100^\circ$



- (3) A と D を結ぶ。

- $\widehat{AB} = \widehat{CD}$ であるから $\angle CAD = \angle ACB = 35^\circ$

- 四角形 ABCD は円に内接するから

- $\angle BAD + \angle BCD = 180^\circ$

- よって $\angle ACD = 180^\circ - (35^\circ + 40^\circ + 35^\circ) = 70^\circ$

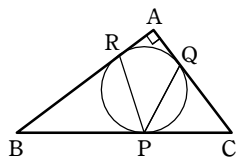
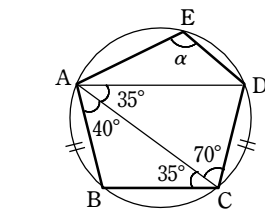
- 四角形 ACDE は円に内接するから

- $\alpha = 180^\circ - \angle ACD = 180^\circ - 70^\circ = 110^\circ$

- [32] 右の図で, 点 P, Q, R は $\triangle ABC$ の内接円と辺との接点である。 $\angle A = 90^\circ$, $BP = 6$, $PC = 4$ であるとき, 次の問に答えよ。

- (1) $\angle RPQ$ の大きさを求めよ。

- (2) 内接円の半径を求めよ。



- [解答] (1) 45° (2) 2

[解説]

- (1) R と Q を結ぶと, 円の接線と弦の作る角の性質により

- $\angle RPQ = \angle ARQ$

- また, $AR = AQ$ より, $\triangle ARQ$ は直角二等辺三角形であるから

- $\angle ARQ = \frac{1}{2}(180^\circ - 90^\circ) = 45^\circ$

- よって $\angle RPQ = 45^\circ$

- (2) 内接円の半径を r とすると $AR = AQ = r$

- また, $BR = BP = 6$, $CQ = CP = 4$ より

- $AB = AR + BR = r + 6$

- $AC = AQ + CQ = r + 4$

- 直角三角形 ABC において, 三平方の定理により

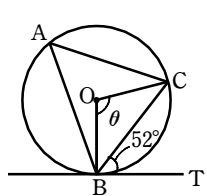
- $(6 + 4)^2 = (r + 4)^2 + (r + 6)^2$

- 整理すると $r^2 + 10r - 24 = 0$ すなわち $(r - 2)(r + 12) = 0$

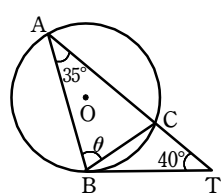
- $r > 0$ であるから $r = 2$

- [33] 下の図で, BT は円 O の接線, B はその接点である。角 θ を求めよ。

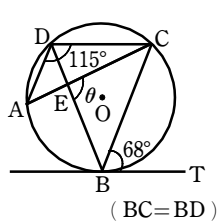
(1)



(2)



(3)



- [解答] (1) $\theta = 104^\circ$ (2) $\theta = 70^\circ$ (3) $\theta = 89^\circ$

[解説]

- (1) 接弦定理により $\angle BAC = \angle CBT = 52^\circ$

- よって $\theta = 2 \times \angle BAC = 2 \times 52^\circ = 104^\circ$

- (2) 接弦定理により $\angle CBT = \angle BAC = 35^\circ$

- よって, $\triangle ABT$ において $35^\circ + (\theta + 35^\circ) + 40^\circ = 180^\circ$

- したがって $\theta = 70^\circ$

- (3) 接弦定理と $BC = BD$ から

- $\angle CBT = \angle BDC = \angle BCD = 68^\circ$

- また $\angle DBC = 180^\circ - (68^\circ + 68^\circ) = 44^\circ$

- $\angle ACB = \angle ADB = 115^\circ - 68^\circ = 47^\circ$

- よって $\theta = 180^\circ - (44^\circ + 47^\circ) = 89^\circ$

- [34] 右の図において, 2つの円は点 C で内接している。また, $\triangle DEC$ の外接円は直線 EF と接している。 $AB = BC$, $\angle BAC = 65^\circ$ のとき, $\angle AFE$ を求めよ。

- [解答] 115°

[解説]

- 2つの円の共通な接線上で, 図のような位置に点 G をとる。

- 直線 CG は円の接線であるから

- $\angle FAC = \angle ECG$

- 同様に $\angle EDC = \angle ECG$

- よって $\angle FAC = \angle EDC$

- 2直線の同位角が等しいから $FA \parallel ED$ …… ①

- また, $AB = BC$ より $\angle FAC = \angle ECD$

- よって $\angle EDC = \angle ECD$

- 直線 EF は円の接線であるから $\angle DEF = \angle ECD$

- よって $\angle EDC = \angle DEF$

- 2直線の錯角が等しいから $AD \parallel FE$ …… ②

- ①, ② より, 四角形 AFED は平行四辺形である。

- よって $\angle AFE = 180^\circ - \angle FAD = 180^\circ - 65^\circ = 115^\circ$

- [35] 右の図で, 直線 PQ は点 B における円の接線である。

- $\widehat{AD} = \widehat{DC}$, $\angle ABP = 54^\circ$, $\angle CBQ = 24^\circ$ のとき, $\angle BAD$ の大きさを求めよ。

- [解答] 75°

[解説]

- $\angle ABC = 180^\circ - (54^\circ + 24^\circ) = 102^\circ$

- $\widehat{AD} = \widehat{DC}$ であるから

- $\angle ABD = \angle DBC$

- よって $\angle DBC = \frac{1}{2} \angle ABC = 51^\circ$

- 直線 PQ は円の接線であるから

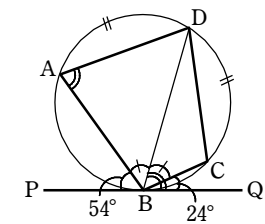
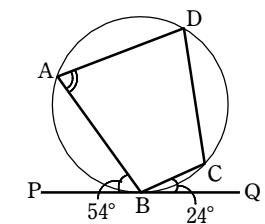
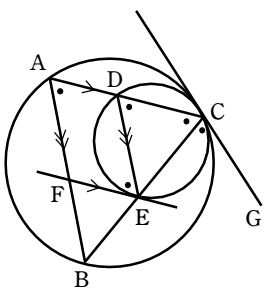
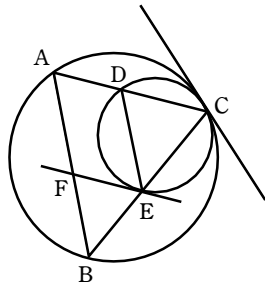
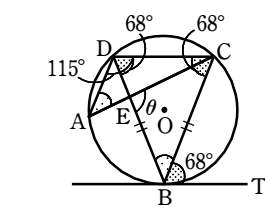
- $\angle BAD = \angle DBQ$

- $= \angle DBC + \angle CBQ$

- $= 51^\circ + 24^\circ$

- $= 75^\circ$

- [別解] ($\angle ABD = \angle DBC$ を示した後の解答の別解)



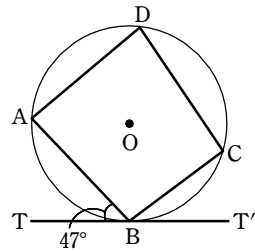
ゆえに $\angle ABD = \frac{1}{2} \angle ABC = 51^\circ$

直線 PQ は円の接線であるから

$$\angle ADB = \angle ABP = 54^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \angle BAD &= 180^\circ - (\angle ABD + \angle ADB) \\ &= 180^\circ - (51^\circ + 54^\circ) \\ &= 75^\circ \end{aligned}$$

- [36] 右の図で、四角形 ABCD は円 O に内接し、直線 TT' は点 B で円 O に接している。 $\widehat{AB} = \widehat{AD}$ 、 $\angle TBA = 47^\circ$ のとき $\angle BCD$ 、 $\angle BAD$ の大きさを求めよ。



解答 順に 94° 、 86°

解説

直線 TT' は円 O の接線であるから

$$\angle ACB = \angle TBA = 47^\circ$$

$\widehat{AD} = \widehat{AB}$ であるから

$$\angle ACD = \angle ACB = 47^\circ$$

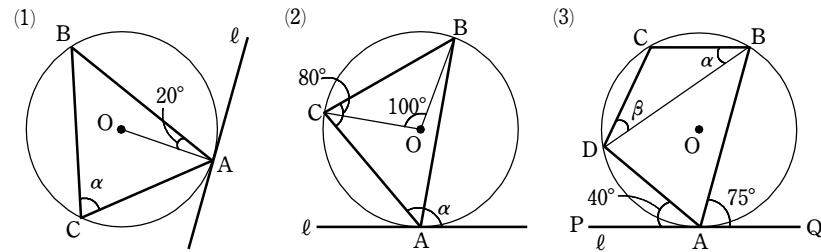
$$\begin{aligned} \text{よって } \angle BCD &= \angle ACB + \angle ACD \\ &= 47^\circ + 47^\circ = 94^\circ \end{aligned}$$

四角形 ABCD は円 O に内接しているから

$$\angle BAD + \angle BCD = 180^\circ$$

$$\text{ゆえに } \angle BAD = 180^\circ - \angle BCD = 180^\circ - 94^\circ = 86^\circ$$

- [37] 次の図において、 α 、 β を求めよ。ただし、 ℓ は円 O の接線であり、点 A は接点である。また $PQ \parallel CB$ である。



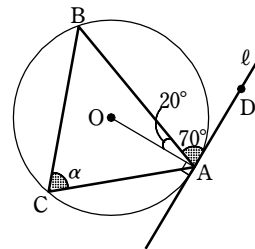
解答 (1) 70° (2) 130° (3) $\alpha = 35^\circ$ 、 $\beta = 30^\circ$

解説

- (1) 直線 ℓ 上に点 D を右の図のようにとると

$$\begin{aligned} \angle BAD &= \angle OAD - \angle OAB \\ &= 90^\circ - 20^\circ = 70^\circ \end{aligned}$$

$$\text{よって } \alpha = \angle BAD = 70^\circ$$



$$(2) \angle CAB = \frac{1}{2} \angle COB = \frac{1}{2} \times 100^\circ = 50^\circ$$

また、直線 ℓ 上に点 D を右の図のようにとると

$$\angle BAD = \angle BCA = 80^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \alpha &= \angle CAB + \angle BAD \\ &= 50^\circ + 80^\circ = 130^\circ \end{aligned}$$

- (3) $PQ \parallel CB$ から $\alpha + \angle ABD = 75^\circ$

$$\text{また } \angle ABD = \angle DAP = 40^\circ$$

$$\text{よって } \alpha = 75^\circ - 40^\circ = 35^\circ$$

次に、四角形 ABCD は円に内接するから

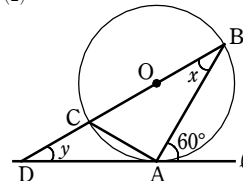
$$\angle CDA = 180^\circ - 75^\circ = 105^\circ$$

$$\text{また } \angle BDA = \angle BAQ = 75^\circ$$

$$\text{よって } \beta = 105^\circ - 75^\circ = 30^\circ$$

- [38] 右の図において、 x 、 y 、 z を求めよ。ただし、

ℓ は円 O の接線で、点 A は接点、また、(2) では $\angle ABD = \angle CBD$ である。



解答 (1) $x = 30^\circ$ 、 $y = 30^\circ$ (2) $z = 52^\circ$

解説

- (1) 直線 ℓ 上に点 E を図のようにとると

$$\angle ACB = \angle BAE = 60^\circ$$

線分 BC は円の直径であるから

$$\angle BAC = 90^\circ$$

よって、 $\triangle BCA$ において

$$x = 180^\circ - (60^\circ + 90^\circ) = 30^\circ$$

また、 $\triangle ABD$ において $x + y = 60^\circ$

$$\text{よって } y = 60^\circ - x = 60^\circ - 30^\circ = 30^\circ$$

- (2) 四角形 ABCD は円に内接するから

$$\angle BAD = 180^\circ - 94^\circ = 86^\circ$$

直線 ℓ 上に点 E、F を図のようにとると

$$\angle BDA = \angle BAE = 60^\circ$$

$$\text{よって } \angle ABD = \angle DAF = 180^\circ - (60^\circ + 86^\circ) = 34^\circ$$

$\angle CBD = \angle ABD = 34^\circ$ であるから

$$z + 34^\circ + 94^\circ = 180^\circ$$

$$\text{したがって } z = 180^\circ - 128^\circ = 52^\circ$$

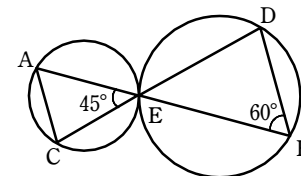
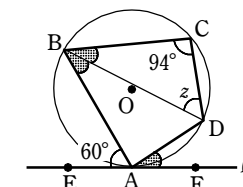
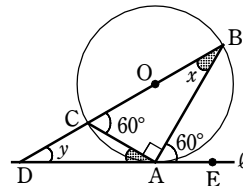
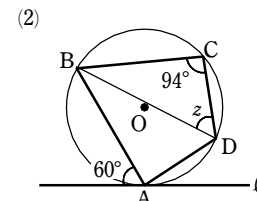
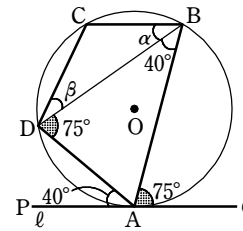
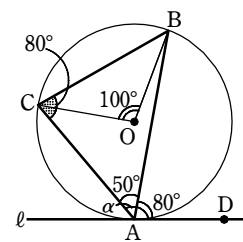
- [39] 図のように、点 E で外接する 2 つの円がある。

点 E を通る 2 直線が 2 つの円と A、B および C、D で交わっている。

$\angle AEC = 45^\circ$ 、 $\angle DBE = 60^\circ$ のとき、 $\angle ACE$ の大きさを求めよ。

解答 75°

解説



右の図のように、点 E における共通接線 FG を引く。

接線と弦の作る角により

$$\angle DBE = \angle DEF$$

対頂角は等しいから $\angle DEF = \angle CEG$

接線と弦の作る角により

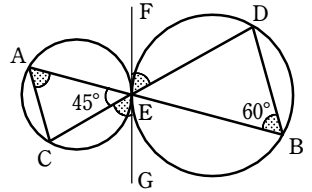
$$\angle CAE = \angle CEG$$

以上から $\angle CAE = \angle DBE = 60^\circ$

したがって、 $\triangle ACE$ において $\angle ACE = 180^\circ - (60^\circ + 45^\circ) = 75^\circ$

- [40] 右の図において、2 つの円は点 P で内接している。

$\angle PAB = 75^\circ$ 、 $\angle PDC = 65^\circ$ のとき、 α を求めよ。



解答 $\alpha = 40^\circ$

解説

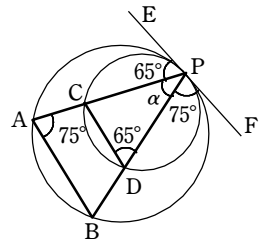
右の図のように、2 つの円の共通接線 EF を引く。

接線と弦の作る角により

$$\angle BPF = \angle PAB = 75^\circ$$

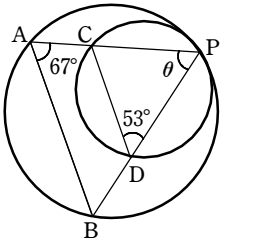
$$\angle CPE = \angle PDC = 65^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \alpha &= 180^\circ - (\angle BPF + \angle CPE) \\ &= 180^\circ - (75^\circ + 65^\circ) = 40^\circ \end{aligned}$$



- [41] 右の図において、2 つの円は点 P で内接している。

$\angle PAB = 67^\circ$ 、 $\angle PDC = 53^\circ$ のとき、角 θ を求めよ。



解答 60°

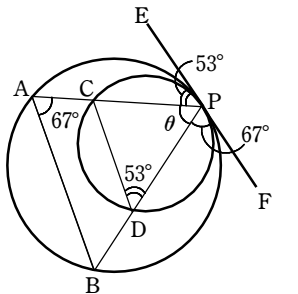
解説

右の図のように、点 P における 2 つの円の共通接線 EF を引くと、接線と弦の作る角の関係から

$$\angle CPE = \angle CDP = 53^\circ$$

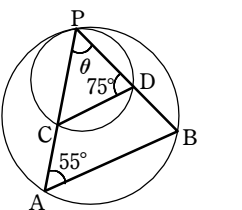
$$\angle BPF = \angle BAP = 67^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \theta &= 180^\circ - (\angle CPE + \angle BPF) \\ &= 180^\circ - (53^\circ + 67^\circ) = 60^\circ \end{aligned}$$



- [42] 右の図において、2 つの円は点 P で内接している。

$\angle PAB = 55^\circ$ 、 $\angle PDC = 75^\circ$ のとき、角 θ を求めよ。



解答 $\theta = 50^\circ$

解説

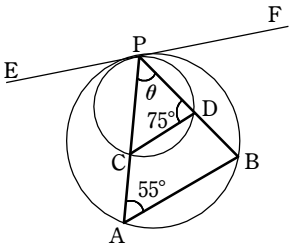
右の図のように、点 P における共通接線 EF を引く。

接線と弦の作る角の関係により

$$\angle BPF = \angle PAB = 55^\circ$$

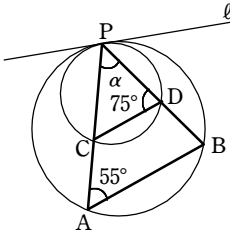
$$\angle CPE = \angle PDC = 75^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \theta &= 180^\circ - \angle BPF - \angle CPE \\ &= 180^\circ - 55^\circ - 75^\circ = 50^\circ \end{aligned}$$

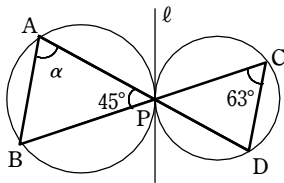


43 下の図で、 α を求めよ。ただし、直線 ℓ は 2 つの円の共通接線で、点 P は接点である。

(1)



(2)



解答 (1) $\alpha = 50^\circ$ (2) $\alpha = 72^\circ$

解説

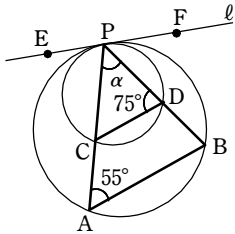
(1) 直線 ℓ 上に右の図のように 2 点 E, F をとる。

円の接線と弦の作る角の性質から

$$\angle BPF = \angle PAB = 55^\circ$$

$$\angle CPE = \angle PDC = 75^\circ$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \alpha &= 180^\circ - \angle BPF - \angle CPE \\ &= 180^\circ - 55^\circ - 75^\circ = 50^\circ \end{aligned}$$



(2) 直線 ℓ 上に右の図のように 2 点 E, F をとる。

右側の円において、接線と弦の作る角の性質から

$$\angle DPE = \angle PCD = 63^\circ$$

対頂角は等しいから

$$\angle APF = \angle DPE = 63^\circ$$

左側の円において、接線と弦の作る角の性質から

$$\angle PBA = \angle APF = 63^\circ$$

$$\text{よって、} \triangle ABP \text{ において } \alpha + 63^\circ + 45^\circ = 180^\circ$$

$$\text{したがって } \alpha = 72^\circ$$

